

\*本日、株式会社ポーラからも「肌荒大気」に関する報道発表を別途行っています。

# NEWS RELEASE



【報道関係各位】

2017年6月20日  
一般財団法人 日本気象協会

## 夏に注意すべき肌荒れをおこす2つの『肌荒大気』を発見

～ 日本気象協会とポーラによる「肌」と「気象」のビッグデータ共同研究 第3弾 ～

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、会長：石川裕己、以下「日本気象協会」）は、株式会社ポーラ（本社：東京都品川区、社長：横手喜一、以下「ポーラ」）との共同研究により、夏の肌に影響を与える外部環境要因について都道府県別に調査した結果、肌荒れ（くすみ・シワなど）の外部環境要因には、「紫外線」「乾燥」に加えて、大気汚染物質による「肌荒大気 ※1（はだあらしたいき）」があることが分かりました。

「肌荒大気」には、気象や地形の違いにより、夏には「留まるタイプの“滞留型”肌荒大気」と「流れ込むタイプの“流入型”肌荒大気」の2つがあることが分かりました。また、汗や皮脂が多くなる夏の肌には、他の季節と比較して大気汚染物質が約3.7倍も多く付着することを確認しました（※2）。

これは、全国47都道府県の7月・8月（2010年～2013年）における「女性の肌データの分析結果」「同時期の気象データ」「大気汚染物質データ」を総合的に解析したことにより明らかになったものです。



※1 「肌荒大気」…ポーラによる造語。「肌荒大気」の「大気」とは大気汚染物質などのこと。

※2 夏の肌への大気汚染物質などの付着量の研究結果については、ポーラのニュースリリース（<http://www.pola.co.jp/company/pressrelease/index.html>）をご覧ください。

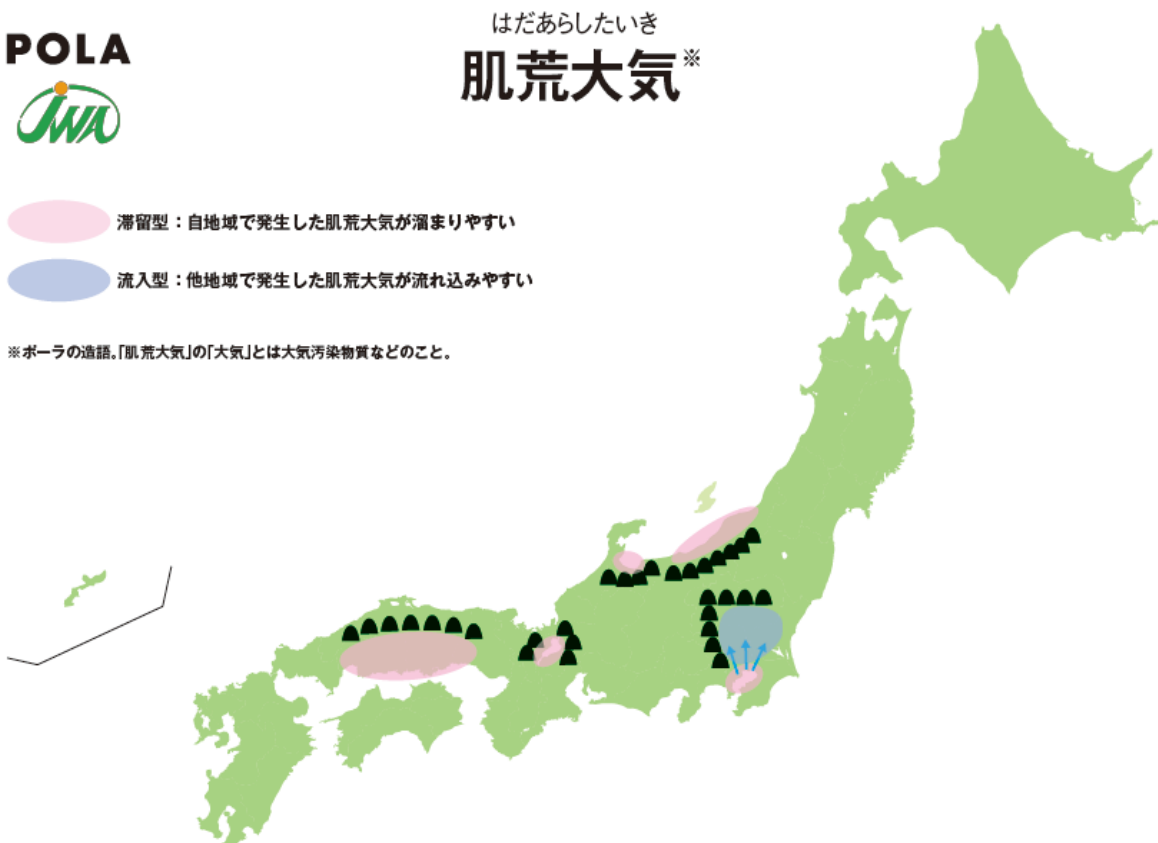
POLA



はだあらしたいき  
肌荒大気※

-  滞留型：自地域で発生した肌荒大気が溜まりやすい
-  流入型：他地域で発生した肌荒大気の流れ込みやすい

※ポーラの造語。「肌荒大気」の「大気」とは大気汚染物質などのこと。





■近くに山地がある地域は注意 留まる「“滞留型”肌荒大気」

その地域で発生した大気汚染物質が、夏の風の弱さや、近くに山地があることにより、滞留しやすく、肌荒れを引き起こしやすくなります。

“滞留型”肌荒大気に注意が必要な都道府県…新潟県・富山県・広島県・滋賀県・千葉県

■海風がある地域は注意 流れる「“流入型”肌荒大気」

他の地域で発生した大気汚染物質が、海風に乗って運ばれてくることにより、肌荒れを引き起こしやすくなります。

“流入型”肌荒大気に注意が必要な都道府県…栃木県・茨城県

日本気象協会とポーラは、それぞれの会社が持つ「気象」と「肌」に関するビッグデータを活用した共同研究を2014年から行っています。これまでも2014年11月に「肌荒風（はだあらしかぜ）」、2015年5月には「毛穴熱風（けあなねっふう）」を共同研究により発見し、報道発表してきました。2015年11月には、気象と肌のビッグデータを活用して肌変化を予測する無料の美容アドバイスサイト「美肌予報（びはだよほう）」を開設しました。

日本気象協会は、今後も気象のビッグデータを活用した他企業との共同展開を通じて、世の中に「新たな価値」を提供するための活動を続けていきます。

以 上